

令和4年度(2022年度)第3回経営戦略会議の概要

議 題	・まちづくりにつなげる社会教育のあり方について ・女性活躍推進について
日 時	令和5年(2023年)3月8日(水) 13:00~14:30
場 所	豊中市役所 第一庁舎3階 第二応接室
出席者	市長、副市長、財務部長、都市経営部長、総務部長 経営改革専門委員(長内委員、下田委員、野田委員、藤本委員)

<主な意見>

<まちづくりにつなげる社会教育のあり方について>

- ❁ 情報のオンライン化が進むに伴い、図書館サービスに求められる機能が変わってきたと思う。図書館が何のためにあるのか、目的やターゲットを明確にし、コンセプトを決めたほうがよい。(「市民が書籍にふれること」なのか、「地域の交流の場」なのか等)
- ❁ 図書館に本を読む以外の機能が求められるようになってきている今、地域に根付いた図書館をつくるためには、居心地の良い空間をつくることが重要ではないか。
- ❁ 予算の制約もあるので、図書館ごとに地域に合った特色を出すなど、ハードとコンテンツをセットで考えることも有用ではないか。その際には、行政でないと提供できないコンテンツは何かという視点をもって考えるべき。
- ❁ 今後、図書の電子サービスを進めるならば、電子本と紙媒体の本とを整理すべき。雑誌等時間がたつと価値が薄れていくものは電子化が向いているが、歴史書や絵本等は紙媒体にすることで、子どもが本に親しむ教育上重要な役割を果たすと思う。
- ❁ 「こども本の森 中之島」は評判が良い。保育施設では所有する本の数が限られているため、子どもがくつろいで多くの本と親しめる場所の需要はあると思う。
- ❁ 世界一本を読む国と言われているフィンランドの「ヘルシンキ中央図書館」は、誰もが使いやすいデザインとなっていたり、軽食がとれる場があったりするため、地域の居場所として人気を博している。
- ❁ 市民が交流し、学び、楽しめる空間を社会教育として作っていく体系が必要。

コンセプトを決めて、居心地の良さを追求した図書館を整備することは有用だと思う。

- ❁ ただし、予算の制約もあるので、周囲の公民館等、社会教育施設のネットワーク全体で、市民サービスの提供方法を考える必要がある。
- ❁ 海外では、行政が何をしているのか市民に伝える「シチズンアカデミー」という活動事例がある。社会教育の一環として、市の事業や役割について市民が理解を深め、互いに交流できる機能が図書館にあってもよい。
- ❁ 図書館や本屋では、目的の本以外との出会いがある。電子サービスを行うにしても、そのような仕掛けがあると良いと思う。
- ❁ 「メタ」と「リアル」を行ったり来たりできるような機能を作ることで、ゲーム世代の子どもたちも上手く引き込めるのではないか。そこへ高齢者等も含めた多世代交流の場が作ればよい。
- ❁ 民営の図書館で、様々な職種の人がボランティアで店番を務めたり、おすすめの本を自由に置けるスペースを設けるなど、独自の取組みを行っている事例がある。
- ❁ 上記の施設では、図書館本来の機能のほかに、社会的ケアや出会いといった地域交流の場としての役割も果たしている。中央図書館構想にも参考になる機能があるのでは。
- ❁ 仕事があるため、平日の日中は図書館に行けない人もいる。休日に、気軽に行けて、くつろげる場があればありがたいと思う。
- ❁ 時間的制約や距離といった物理的な要因で図書館を利用できない人が多いのであれば、気軽にオンラインで触れ合えるコミュニティの場を用意することで、利用者を増やすことができるのではないか。
- ❁ 海外では、公共施設が日本に比べて少ないため、図書館の前でイベントを行うことが多く、イベントへの参加と併せて図書館を利用している人もいると思う。
- ❁ 最近、大学内の学習スペースも飲み物の持ち込みをできる場所が増えてきている。カフェで勉強している人も多いので、飲み物等の持ち込み制限を緩和すると、自習で使いたい人を図書館に引き込むことはできるかもしれない。
- ❁ 大学や民間企業と連携してサイエンスアカデミー等の事業を実施することで、学生の利用が増える可能性もある。
- ❁ 交流の場として図書館を活用するなら、静かな空間とコミュニケーションできる空間を区分けするのもよい。コロナ禍を機に働き方が変化しているため、リモートワーク用の空間を設置することも検討してみてはどうか。

- ❁ 豊中市の他事業と比べると図書館の事業費は高いと感じた。図書館だけでなく社会教育施設全体を、すべての市民が利用できるよう、既存施設との兼ね合いや利用ニーズを考慮して事業の方向性を考えるべき。
- ❁ 図書館の事業費のなかで、維持管理費が多くを占めていることを考えると、中小規模の図書館が分散しているのが一番大きい要因と思われる。
- ❁ 図書館の事業費のなかで、人件費が占める割合が多いことを考えると、すべての業務を専門職が担うのではなく、地域のアクティブシニアや有償ボランティア等との協働も検討してみてもどうか。

<女性活躍推進について>

- ❁ 女性活躍推進の具体的な取組みを進める前に、まずは理論整理をしておく必要がある。
- ❁ 女性活躍推進の取組みは、「女性支援」を最終目標にするのではなく、ダイバーシティを推進するうえで、まずはマイノリティの中のマジョリティである女性の支援から始める、という意識に立つべきである。
- ❁ 大学では、「男」「女」といった二元論に立っておらず、性別欄を廃止している。ビジネススクールでは女性リーダーシップ研修を始めている。
- ❁ 女性活躍を推進するには、ロールモデルをつくるのが良いと思う。メンター制度のような、職場の中などに、ロールモデルとして相談できる人がいると助かるのではないか。
- ❁ 働く女性の交流の場をつくっていく等の仕掛けが必要ではないか。
- ❁ 市では起業に対する講演や相談事業があるが、「入口」部分の支援だけではなく、「出口」を見据えた支援を行うと、起業家が増えると思う。
- ❁ 働きたい女性はいるが、子育て中であれば全ての時間を仕事に注ぐことは不可能。短時間ワークや空いた時間に働くことができる仕組みをつくってはいかがか
- ❁ 勤務形態が短時間労働であっても、管理職として活躍できる仕組みと風土を根付かせていくことが大切では。
- ❁ 短時間労働を認める場合は、性別関係なく、職場内でのコミュニケーションの強化を図ることが必要。
- ❁ 直近5年くらいの傾向として、事務職の新規採用職員は、女性が6割以上。管理職では3割。男女ともに、子育てなどのライフイベントが出てくる中で、社会に応じた勤務制度を考えないと市役所の持続性も危ういと思う。一方で、

法律の関係で短時間労働等、自由な働き方の裁量がまだまだ与えられていない。

- ✿ 働き方を考える場合、デジタル技術の活用や業務内容の見直しなどと併せて行うべき。
- ✿ 保育所だけでなく、家事や子育てをアウトソーシングできるサービスがあればよいのではないか。社会で子育てできる仕組みが必要。
- ✿ 起業したいという女性は周囲にいるが、費用、時間等の制約の中で、まずはスモールスタートで始めたいと思っている人が多い。また、スペース貸しなどの行政支援があれば良いという声を聴く。
- ✿ ジェンダークォータ制について、海外では導入が進んでいる。
- ✿ ジェンダークォータ制について、土木、建築分野など、一定程度、導入を進める方が良いと思う
- ✿ ジェンダークォータ制について、なかなか進まない分野については導入したらよいと思うが、比率については議論するべきであると思う。